

| | | | |
|-----|--|-------|-------|
| 科目名 | 国際関係学演習 Seminar: International Affairs and Communications | 科目コード | 50960 |
|-----|--|-------|-------|

| | |
|----------|---|
| 学科名・学年 | 全学科、全学年共通 |
| 担当教員 | 大森理聡、山岸真幸、長部恵一、竹部啓輔、 奥村寿子、山本隆広、大湊佳宏（地球ラボ室） |
| 区分・単位数 | 選択・1単位 |
| 開講時期・時間数 | 通年，15時間【内訳：講義2，演習13】 |
| 教科書 | 授業時に担当教員が必要に応じて配布 |
| 補助教材 | |
| 参考書 | |

【A. 科目の概要と関連性】

世界を舞台にした技術者をめざして留学生と日本人が相互の文化理解力を養いグローバルなコミュニケーション能力を身に着け、情報発信として留学生と日本人学生が協力してプレゼンテーションコンテストに参加することを旨とする。担当教員は、議論のファシリテーター役として授業に参加する。

【B. 「科目の到達目標」と「学習・教育到達目標」との対応】

この科目は長岡高専の教育目標の(B)と主体的に関わる。

| 科目の到達目標 | 評価の重み | 学習・教育到達目標との関連 |
|--------------------------------------|-------|---------------|
| ①国際比較の視点から日本の文化や課国際文化を理解する | | (b1) |
| ②国際関係の視点から相互の文化理解の促進に役立つ情報発信能力を身につける | | (b3) |

【C. 履修上の注意】

1～5年生の学生が一斉に受講する。積極的な参加・発信を期待している。また、12月に朱鷺メッセで開催される、新潟県国際交流協会主催の国際理解教育プレゼンテーションコンテストに参加する。

【D. 評価方法】

次に示す項目・割合で達成目標に対する理解の程度を評価する。XX点以上を合格とする。

- 定期試験（0%）
- その他の試験（0%）
- レポート（50%）
- その他（50%）プレゼンテーションの発表など

【E. 授業計画・内容】

● 通年（隔週開講）

| 回 | 内容 | 備考 |
|----|--|-----------------|
| 1 | オリエンテーション & 自己紹介 | |
| 2 | 留学生の国紹介スピーチ&ディスカッション（日本人から見た発見） | |
| 3 | 日本人の国（故郷・出身地）紹介 | |
| 4 | 海外派遣研修に参加した学生の訪問国紹介 | |
| 5 | 「違う視点」での留学生の国紹介（又は、日本の文化についての紹介） | 日本人学生と留学生が共同で行う |
| 6 | 「違う視点」ミニプレゼン（発表） | |
| 7 | 国際理解教育プレゼンテーションコンテストに向けての話し合い① | |
| 8 | 国際理解教育プレゼンテーションコンテストに向けての話し合い② | |
| 9 | 国際理解教育プレゼンテーションコンテスト 夏休に作ったプレゼン案の検討 | |
| 10 | 国際理解教育プレゼンテーションコンテスト プレゼンの調整と練習 | |
| 11 | 国際理解教育プレゼンテーションコンテスト プレゼンの仕上げ | |
| 12 | | |
| 13 | 国際理解教育プレゼンテーションコンテスト | |
| 14 | @朱鷺メッセに参加 | |
| — | | |
| 15 | 振り返り | |

※上記の予定は予告なしに変更する可能性があります。開講日については、掲示にて後日お知らせします。